



通信

認知症  
三二講座⑤

## 中核症状 実行機能障害

「実行機能障害」とは、自分が目的を持って行おうとする一連の動作を判断し、それに合った行動ができなくなることをいいます。



効率よく作業することが  
できなくなる

口頃から家事をしてこられた方の場合、もともと「障害」に気がきやすいのは「料理をする」という動作です。例

えば、味噌汁の調理を例にあげてみると、お湯を沸かしてダシをとり、切った具材を入れ、最後に味噌を溶かすだけの簡単な作業です。しかし、症状が出てくると、味噌汁の味が極端に変わったり、今まで入れたことのない具材を入れたりするようになります。私の関わった「認知症」の方は、味噌汁にレタスだけを入れていました。また塩のおにぎりを、砂糖で握っていた方もいらつしました。「何かを入れなくては！」と思っても、何を入れればいいのかという認識はなくなっていたようです。

その他に、テレビのリモコン操作ができなくなったり、洗濯機の使い方

や、洗剤の量が分からなくなったりすることが出てきます。このように「実行機能障害」は、今までできていた簡単なことができなくなる障害をいいます。

できることを少しでも  
続けていくために

このようになると、周りの人が「何もしてほしくない」と思うようになるのは普通のことです。しかし「認知症」の方にとっては、今までできていた部分までもできなくなって、症状が進み悪循環になってしまいます。

また一連の動作が分からなくなると、「すべてが分からなくなった」と勘違いしやすいのですが、実は一つずつの作業は見事にできることがほとんどです。次に行う作業を教えてあげたり、手伝ってあげたりすることで一人ではできない動作が可能になり、できる部分を続けていける場合があります。

ります。周りの方が、少し時間と心に余裕をもって関わっていただけると良いですね。

早いもので、認知症ミニ講座も5回目になります。これまで「中核症状」をお伝えしてきました。現在「認知症」の方に関わっている方、今後身近な人が発症したら…と、不安を感じている方にとつて、少しでもお役に立てたら幸いです。次回からは「周辺症状」をテーマにお送りします。

また、生協の介護保険サービス（デイサービスなど）は「あなたらしく」地域で生活を続けていけるよう「認知症」の方をサポートしています。介護に興味や不安をお持ちの方は、お近くの「きらめき」各施設まで気軽にお問い合わせください。

坂井きらめき 石川 陽子

お問い合わせ先  
15ページ  
コールセンター

年末年始のお休み 高齢者介護施設 きらめき……サービスにより異なります。詳しくは各施設までお問い合わせください。